

こぶし通信

Vol.58

2023.12

社会福祉法人こぶしの会

〒630-8424 奈良市古市町529-4

電話 0742-63-6765 FAX 0742-63-6766

e-mail/kokkara@kokkara.jp <http://kokkara.jp/>

発行責任者/坂下 伸一

Column

きょうされん全国大会参加とその後の旅から

社会福祉法人こぶしの会 理事長 坂下伸一

新型コロナ感染拡大以降、宿泊を伴う旅に出る機会がめっきり減ってしまった。ただ、昨年からきょうされん全国大会が、オンラインではなくリアルで開かれるようになったので、大会参加とその前後に開催地近辺を旅することにしている。

全国大会から学ぶ

8月末にきょうされん全国大会が埼玉であった。今年の大会は、昨年9月に、国連障害者権利委員会から出された日本政府に対する総括所見（勧告）について、そのものを知ると共に、日本の障害者施策にどう生かしていくかということが中心の話題になっていた。少し難しい話だったが、現在の日本の障害者施策の状況や課題がよく分かるものだった。

個人的には、「地域づくり・人づくり」という分科会に参加した。人材確保や育成ということが案内にあったので興味をもち参加した。各地の報告を聞くと、どのような地域でも、こぶしの会と同じように、人材確保や育成について苦労している。人口減少だから仕方がないではなく、何が問題なのか考えなければならないと思った。これまでも言われていることだが、日本政府の中には「子どもの教育は専門的な力が必要だが、障害者や高齢者福祉は、誰でもできる簡単なしごと」という考え方が根強くある。従って、福祉で働く人たちの賃金が低く抑えられている。教育と障害者福祉の両方に関して私にとっては、どちらも同じように大切なしごとであり、専門性があるものだと考えている。人材不足や育成の課題もこうした視点から見なければならない。

なお、大会そのものとは直接関係ないのだが、仲間たちと夜の交流会は、私にとって、とても楽しく、仲間たちから学ぶ機会にもなっている。

ダークツーリズム～足尾銅山へ～

さて、みなさん「ダークツーリズム」という言葉を知っていますか。『ダークツーリズム』（幻冬舎新書 井出明著）によると「戦争や災害をはじめとする人類の悲しみの記憶をめぐる旅」という意味だそうだ。私自身、それほどマニアックでもないのですが、旅行する時は、誰でもが訪れるような、いわゆる有名観光地に行くのだが、あまりにも芸がないので、1、2か所、普通の旅行客があまり行かないようなところに行くことにしている。そういう時には「ダークツーリズム」の場所に行くことも少なくない。

今大会後の旅は、日光へ一度行ってみたいと思っていたので栃木県を訪れることにした。当然、日光東照宮や華厳の滝など観光地を回り、宿泊は鬼怒川温泉というお決まりのコースなのだが、加えて「足尾銅山」を訪れることにした。「足尾銅山」を訪れようと思ったのは、日本の公害の原点といわれる「足尾鉍毒事件」やその運動に生涯を捧げた田中正造のことを学びたいと思ったからだ。（後で知ったのだが、今年は田中正造没後110年だそうだ）

今は、「足尾銅山」は観光施設になっていて、トロッコ列車に乗り坑内に入れる。トロッコ列車を降りた後は、坑内を歩き、当時の様子を人形で再現しているのを見て回る。ここにあるパンフレットや表示では、鉍毒事件や田中正造のことはほとんど触れられておらず、「足尾銅山」が銅の生産を通じて、日本の工業拡大や採掘技術の発展に大きく貢献したことが書かれている。実は、鉍山より少し離れたところに移転した「NPO法人田中正造記念館」に行きたかったのだが、週4日しか開館しておらず、私が行った日は休館日で見学することができなかった。ちょっと残念な思いだった。

「足尾銅山」が、日本の発展に貢献したことは間違いない。しかし、そこには「足尾鉍毒事件」にみられるように負の側面が存在することを忘れてはならない。

多くの人から実際に話を聞いたり、現地に行ってみたりすることは、たくさんの学びを与えてくれる。ただ、一方的に判断するのではなく、多面的・総合的な視点から出来事を見極めたいと、改めて強く思う旅であった。



こっから祭

ここすた NEWS

こっから祭の準備は、仲間自治会に古木常務理事が祭りのイメージを話しに来られたことがはじまりとなりました。ここに・すたあとでは①飲み物、②おにぎり、③スイートポテト、④チューリップの球根、⑤中西農園のみかんの販売を担当することになり、ステージではそれぞれの事業所をクイズ形式で来場者を知ってもらおうと、仲間自治会で各5問ずつ考えました。

「ここにが開所した時の仲間の人数は?」「今年のここすた旅行の行き先は?」など良問ぞろいでした。

ここには、仕入れの買い出し、店販売の準備に大忙し。

すたあとは、ステージを盛り上げるべく、1か月毎日裏庭で踊りの練習をしました。

お隣の会社から「もうすぐ運動会ですか?」と聞かれるぐらいの熱心さ…。

祭り当日は、お店は完売御礼。ステージでは仲間が輝いていました。キレキレの踊りを披露し、「こんなに踊れる人だったの?」という驚きや、真剣な太鼓叩きのカッコよさにしびれたり、仲間のいろんな笑顔がはじけていました。「次は、もっと盛大にしたいな」「もっとたくさんの人に楽しんでもらいたいな」と感想が出されました。

(文責:島耕治)



新グループホームひまわりの1周年を迎えて

ふゆーちゃー NEWS

はじめに新しいひまわり開設に携わって下さった皆様に感謝いたします。

旧ひまわりのメンバー 6名は建て替えのため2度の引っ越しをしましたが、嫌気がさすこともなく、自分たちで段ボール箱を組み立て、「〇〇日に一緒に荷造りをお願いします。」と新ひまわりの完成を楽しみに頑張っておられました。

また新しい仲間にとっては、初めてのグループホームでの生活。

緊張と不安の中、頑張っただけ、今では毎日が楽しそうで、ひまわりが大好きと語ってくれています。

洗濯をしたことのなかった仲間、中々自分の思いを伝えられなかった仲間、好き嫌いが多かった仲間など、色々ありましたが1年経った今、日々の頑張りの中で、たくさんできることが増え、生き生きと共同生活を楽しんでおられます。

11名の大家族ではありますが、これからもスタッフ皆、心1つにして仲間が安心して暮らせるよう、努めていきたいと思えます。

最後になりましたが、7月20日に「和食さと」にて盛



大に1周年のお祝いをしました。

事前に好きなメニューを選び、みんなワクワクです。

当日は仲間の歌あり、踊りありで大盛り上がりでした！これからもグループホームをよろしく願いいたします。

(文責:篠原良美)

山下さん、ようこそこっからへ

こっからNEWS

10月6日、山下優人さんの入所式がこっからで行われました。

山下さんの今の生活リズムに合わせ、午後からの入所式です。自宅でも、朝からいつもと違う雰囲気を感じていたのですが、開始時間に到着し無事に式を終えることができました。記念品を受け取り、にっこりとした柔らかい表情がとても印象的でした。

坂下理事長からは、入所式の看板に書かれた”歓迎”の文字に触れ、「山下さんを、喜んで迎え入れます。新しい仲間が増えることは、山下さんにとっても、迎える仲間にとっても、よい経験になるでしょう」というお話がありました。

また、梅田施設長とは、山下さんが小さい頃からのお知り合いで、大人になって再びこっからで出会ったというエピソードの持ち主です。

所属は、紙漉き班です。

これから、どうぞよろしくお願いします。

(文責:杉原郁美)



そうだんしつ窓から

こぶしの会相談支援センター 小針 康子

「障害があること、ひとり親であること、女性であること。 3重の困難と差別の中で～児童扶養手当併給違憲訴訟から～」

10月、大阪高裁で「ひとり親の児童扶養手当併給違憲裁判」の判決を聴きました。マスコミ9社が法廷の記者席を占め、注目された判決。しかし「控訴棄却」。理不尽!

原告の山田真有さんは、4人の子どもを育てるシングルマザーです。過労を引き金に難病「繊維筋痛症」を発症し、身障1級の障害者となりました。障害基礎年金の受給が始まってすぐ、児童扶養手当が打ち切られます。併給禁止規定～夫婦そろった世帯なら、障害基礎年金も児童扶養手当も受け取る人が重ならず、両方支給されるのに、一人親はどちらか一方しか受給できないのです。途方に暮れる中、児童相談所は何度も子どもたちを手放す説得にきました。「障害者に、ましてシングルマザーに子育てはできない」と。

障害のあるひとり親への理不尽な差別に、山田さんは意を決して京都地裁に提訴。係争中の2021年国はこっそり児童扶養手当法の改正をしました。一部併給を認めたのです。しかし判決は、法改正を盾に、改正前の不条理は、憲

法25条にも14条にも国際人権条約規定にも違反するものではない。ましてや生活保護を受けているのに年金も手当もカンケーないだろう、とばかりの言い分は納得できるものではありませんでした。何より裁判官は、最後まで、本人尋問を受け入れず（原告の生活実態を論点にしない）、法律文言の解釈に終始する、冷たく、矛盾の多い判決でした。

全身の痛みを常に伴い、汗ばむ日にもとっくりのフリースを着て、ひざ掛けをかかせない山田さん。報告集会では車いすを押す長女さんに優しく目配せし、しっかりと記者会見に臨んでおられました。障害、ひとり親、女性、ヤングケアラー……どの困難も、私たちの身近に、背中あわせにある課題です。相談支援の現場からもつくづく感じています。裁判の今後もしっかり見届け支援していきたい。障害のある人の人生にむきあう相談員として。そして同じ女性として。

7月



【こっから】
お出かけ班
郡山イオンを
散策



【ここすた】
恐竜博に行ってきました



【こっから】
(株)ヘラルポニー松田
代表と御社5周年記念レ
セプション(岩手)での
オフショット



【こっから】
グルメ班 パフェ作り

9月



【こっから】
みんなで会議(サークルと祭と、りょう。。)



【ここすた】
京都市動物園

Topix

8月



【グループホーム】
餃子作り



【グループホーム合同】
おふさ観音風鈴祭り



【すたあと】ブルーベリー収穫



【ここすた】
ボウリング大会

10月

【こっから】
中宮寺跡
コスモスとお弁当



【グループホーム】
職員学習交流会

【すたあと】
レモン収穫



【グループホーム】
ハッピースマイル
レクリエーション

こっから祭 コメント



クイックマッサージの皆さん 私たちも楽しめました。仲間がマッサージに来てくれたのがとても嬉しかった。



中西農園さん これまでの1,000人が集まる祭もたくさんの方がみかんを楽しみにしてくれて嬉しいが、今回の家族会や関係者の方だけのお祭も、ゆっくりと話ができて良かったです。こっから祭に来れる事が生きる張り合いになっています。



来場者コメント1

今年は小さい規模でとのことでしたが、バザーや仲間のステージなど十分楽しめました。久しぶりにこっからに来たけど仲間が覚えていてくれて嬉しかった。



来場者コメント2

青空で良かったですね。仲間の皆さんも楽しそうで、来てよかったです。また地域の清掃活動をいっしょに頑張りましょう。



来場者コメント3

コロナがあって久しぶりに仲間や職員さんと会えてうれしかったです。昔のように話ができて懐かしかったです。

来場者コメント4

久しぶりの仲間の笑顔とこっから祭の暖かい雰囲気を感じる事が出来ました。



奈良蟻の会の皆さん

ギター音が鳴ったとたんみんな飛び出して来てくれて、改めて歌うことが好きなんだなって思いました。

4年ぶりのこっから祭開催

コロナウイルス感染症が5類へと移行した今年、こぶしの会でも、感染対策をしながら、お祭をできないかと模索しました。

○これまでは、地域に開かれた祭であったが、今年は顔の見える範囲内の人で楽しむようにしよう。

○飲食の場面を極力減らすことに注意して、開催することにしました。

家族会からは、せっかくやるなら、「仲間も、家族も楽しめる」内容にしようという提案があり、企画をしていきました。

仲間自治会では、ゲストによるステージがない分、仲間が踊りや歌をたくさん披露して盛り上げようと、合同仲間自治会を開き、こっから、ここに、すたあとそれぞれの仲間企画の出し物や役割分担（太鼓や司会の係）を話し合いました。

施設にソーラン節や出し物の音楽が溢れたこの1カ月。

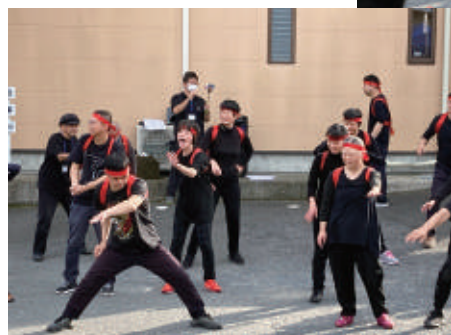
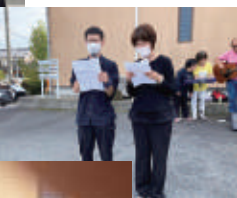
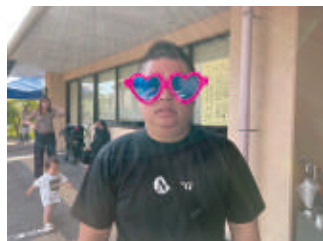
当日まで全員揃っての練習は出来ませんでした。祭では1番のパフォーマンスを披露する仲間の姿に、準備の疲れも吹き飛ばすのでした。

さて、来年はどのようなお祭にしていこうか…。

いまのこぶしの会にあった祭を新たにつくっていく転換期かもしれません。

(文責：杉原郁美)

第19回 こっから祭 写真特集



サークル活動



自分の やってみたいことに 出会う

前号、こっからサークル活動スポーツ班の紹介をしました。
なぜにサークル活動を始めたのかを紹介します。

以前より自分のやりたいことを選択して実行する機会を作りたいと思っていました。仲間・職員共に得意な事や好きなことを一緒に探求する時間は楽しく、何より一人ひとりの意外な一面が見られた時、その人への見方がよりよく見えますし、距離感が近くなるように思います。

あとは…

長かったコロナ禍の3年間「密を作らない」活動を余儀なくされ、常に班ごとで活動を完結していました。しかし、今回班を越え仲間・職員みんな混ざった活動をしたいと提案しました。

「みんな会議」にてみんな（仲間・職員）でやりたい事を出し合い、候補をしばり、それぞれ希望の活動を選択する。

他の人のやっているのを見て、違う事がやりたいと思えば、翌週選択変更可。

参加したくないって選択肢もあります。

生活経験の幅を広げる事、気になる人と一緒に喜び、感動する、笑いあえる人を増やす機会の一端にサークル活動があったらと願っています。

(文責:梅田玲輔)



毎週月曜日の13:30から取り組んでいます。
面白い趣味・特技をお持ちの方、ぜひご一緒にください。
お問合せ 0742-63-6765:こっから 梅田・川野・西口

法人研修報告

こぶしの会では、年2回全職員を対象とした法人全体研修を行っています。

第一回目は8月26日に行われました。

理事長のお話の後、全職員に事前回答を求めた虐待についてのアンケートのまとめや災害時の法人での支援体制についての共有を行いました。(虐待研修は年1回の実施が義務付けられています。)

現場からの実践報告として「いま、人として生き合うために～試行錯誤の中で」と題し、「こっから」「ここに」「グループホーム」より各職員が実践の悩みからどのように「人らしく生きる」ことを支援するか試行錯誤していることを

語り合いました。

午後は、報告を踏まえグループに分かれて自分自身を振り返り、他の職員の考えを聞きあう時間をたっぷり取りました。

感想レポートでは「仲間のためにしていることが一方通行になっていないか、思い直したい」「仲間のチカラのごさや変化が見えたとき、職員とともに喜びあえたことが次へのチカラになった」などが出されました、

たくさんの仲間の輝きを見つけることができ、「より良い実践にはよりよい職員集団作りが不可欠」であることを共有することができました。(文責:島耕治)

第46回きょうされん全国大会in埼玉に参加しました。

こぶしの会からは理事長はじめ、職員3人、仲間4人が参加しました

埼玉県さいたま市大宮ソニックシティで8月30日～31日の2日間の日程で「さげぼう命の尊さ いたこう人権の重み つなごう平和への願い」(わたしらしくあなたらしく生きられる社会を)をテーマに仲間のオープニングセレモニーで始まりました。

この日のためにみんな思い思いを一生懸命練習されたこと、本当に凄いなとおもいました。そのあと「いのち輝け2023」をさくまひできさんと一緒に歌い、踊りと楽しいオープニングになりました。

藤井克徳専務理事の基調報告は世界の動き(ロシアのウクライナ侵攻)の影響、障害者権利条約の日本の現状、優生保護法の問題、障害者雇用ビジネスの問題、事業所での雇用形態、コロナ感染の問題点、日本の障害者施設の問題など様々な角度から語られました。

2022年2月から始まったロシアのウクライナ侵攻は絶対にあってはならないことでした。一番しんどい思いをするのは弱い立場の人々でそれはウクライナの仲間、ロシアの仲間、戦争を起こした側も被害を受けた側も同じでしんどい生活を強いられています。

一刻も早く戦争が終わり両国の国民、仲間に平穏無事な生活が戻ることを願います。

その平和国家の日本がまさかの専守防衛、軍事力の拡大を掲げ、今年度7兆円、5年間で43兆円の軍事費を増やしこれにより世界10位の軍事大国になろうとしています。

日本が目指さなければならないのは軍事大国ではなく福祉大国であるべきではないでしょうか。またこの軍事力増大に伴い日本の平和憲法までもそれに合わせようとしていることに我々にはっきり反対の声を上げなければなりません。

これらのことを踏まえ今大会を以下のようにしたいと基調報告を締めくくられました。

明日は今日の続きであってはならない

(文責:木村洋司)



2022年度 決算 公 告

社会福祉法人 こぶしの会

貸借対照表 2023年3月31日現在

単位:千円

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	167,755	流動負債	18,791
現金預金	125,193	その他の未払金	362
未収金	40,309	未払費用	2,063
貯蔵品・原材料	1,004	1年以内返済借入金	11,845
他流動資産	1,249	他流動負債	31
固定資産	405,075	賞与引当金	4,490
基本財産	343,402	固定負債	150,655
土地	130,075	設備資金借入金	150,655
建物及び附属設備	213,327		
その他固定資産	61,673		
建物及び附属設備	2,638	負債の部合計	169,446
構築物	15,548		
機械及び装置	245	【純資産の部】	
車両運搬具	3,592	基本金	50,840
器具及び備品	4,873	第1号基本金	50,840
無形固定資産	2,917	国補等特別積立金	68,633
工賃変動積立資産	500	その他の積立金	21,000
設備等整備積立資産	1,500	次期繰越活動収支差額	262,911
修繕費積立資産	13,000	次期繰越活動収支差額	262,911
借入返済積立資産	6,000	(うち当期活動収支差額)	(11,845)
差入保証金	400		
他固定資産	10,462	純資産の部合計	403,384
資産の部合計	572,830	負債及び純資産の部合計	572,830

資金収支計算書

自:2022年4月1日 至:2023年3月31日 単位:千円

	予 算	決 算	差 異
【事業活動による収支】			
就労支援事業収入	19,124	15,563	3,561
自立支援給付費収入	211,240	209,019	2,221
利用者負担金収入	21,360	22,261	-901
補足給付費収入	2,820	2,871	-51
その他の事業収入	3,281	2,943	338
借入金利息補助金収入	120	14	107
経常経費寄附金収入	1,000	1,315	-315
受取利息配当金収入	0	2	-2
その他の収入	4,308	3,398	910
事業活動収入計	263,253	257,384	5,869
人件費支出	172,708	169,328	3,380
事業費支出	31,467	27,493	4,034
事務費支出	19,864	18,600	1,264
就労支援事業支出	20,300	19,688	612
支払利息支出	480	474	6
その他の支出	570	562	8
事業活動支出計	245,389	236,085	9,304
事業活動資金収支差額	17,864	21,299	-3,435
【施設整備等による収支】			
施設整備等補助金収入	1,960	1,960	0
施設整備等寄附金収入	0	0	0
施設整備等収入計	1,960	1,960	0
設備資金借入金元金償還支出	2,250	2,250	0
固定資産取得支出	8,830	8,579	251
施設整備等支出計	11,080	10,829	251
施設整備等資金収支差額	-9,120	-8,869	-251
【その他の活動による収支】			
その他の活動収入計(7)	560	560	0
その他の活動支出計(8)	4,750	4,013	737
その他の活動資金収支差額	-4,190	-3,453	-737
予備費	500	0	500
当期資金収支差額合計	4,054	8,977	-4,923
前期末支払資金残高	155,397	155,397	0
当期末支払資金残高	159,451	164,375	-4,923

とうふとぱん 店舗販売再開のお知らせ

長らく休止しておりました、こっからでの店舗販売を11月14日(火)から再開いたしました。営業日時は下記の通りです。皆様のご来店を仲間とともにお待ちしております。

住所：コミュニティワークこっから
奈良市古市町529-4
TEL 0742-63-6765

営業日：火・水・木・金
(祝日、お盆、年末年始はお休み)

営業時間：11:00~13:00

13:00までの電話予約にて、17:30まで店頭受取りが可能です。
(手作りのため生産数が少なく、売り切れの場合はご容赦ください)



表・紙・解・説

■表紙作者プロフィール

作者：中村真菜さん

作品介绍：パンはクリームパン・ピザトースト、湯だね食パンを描きました。

とうふは絹とうふともめんとうふを描きました。

作者紹介：こんにちは。紙すき班で仕事しています。

月曜日~金曜日はひまわりで暮らしています。

友だちとぬいぐるみが大好きです。



社会福祉法人こぶしの会では、事業拡大に伴い私たちと一緒に働いてくれる、**正規職員(生活支援員) 非正規職員(生活支援員・グループホーム職員・送迎スタッフ)**を募集しています。

■生活支援員(正規職員)

支援内容	障害のある人たちの仕事や生活のサポート(食品製造・配達、文化活動、健康維持、身辺自立等) 送迎、法人内事業所間の異動有
勤務時間	8時45分~17時30分(配属班によっては早出有り)
給与・手当	185,935円~216,685円(調整手当含む) 賞与2カ月/年 通勤手当、住宅手当、家族手当、処遇改善手当、その他職務手当
社会保険等	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険
必要資格等	普通自動車免許(必須)、基本的なPC操作(エクセル、ワード)

※非正規職員も募集しています。1,010円(経験者1,060円)

■グループホーム支援員(非正規職員)

支援内容	グループホームでの生活全般(食事、入浴、整容等)の介助や見守り
勤務時間	16時~翌10時までの宿泊をとまなう勤務 ※またはこの時間内で3~5時間で宿泊をとまなわない勤務についても応相談
給与・手当	1,010円(経験者1,060円) 夜勤手当、通勤手当、業務手当 ※契約時間によって社会保険適用
必要資格	不問

求人は随時おこなっています。未経験の方も安心して働けるようサポートします。詳細・お問い合わせにつきましては、こっから/梅田(0742-63-6765)又は法人本部/藤井(0742-63-6504)までご連絡ください。

編集後記

こぶし通信58号を無事発行することができました。今号の特集にもなっていますが、コロナ禍で中止が続いていた「こっから祭」を4年ぶりに開催しました。といっても、これまでの参加者が1,000名を超えるような大規模なイベントではなく、仲間、家族そして法人職員が、今できる精一杯を考え、みんなで力を出し合ったそんなお祭りとなりました。以前の賑やかさと比べるとこじんまりとした感否めませんが、会場のあちらこちらでは久しぶりの再会を喜び合う姿がありました。人が何人集まったとか売り上げがこんなにたくさんあったとか、そんな大きな数字に一喜一憂するのではなく、ゆっくりと優しい時間が過ぎていくような、それでいて改めてひとつのつながりの大

切さを感じることでできた1日でした。今回の通信では、他にも手探りしながら仕事に活動にと再びチャレンジを始めた仲間の姿がたくさん報告されています。過去と同じようにはなく、これから変化していく環境のなかで、いま一緒にいる人たちがこれから出会う人たちと共に、また新しい価値をつくっていきたいと思います。2023年もたくさんのご支援とご協力本当にありがとうございました。2024年もこぶしの会らしくみんなで力を合わせて一歩一歩あゆんでいきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(文責：古木 一夫)

こちらも
ご覧下さい

<http://kokkara.jp/>

・ネットショップ ・活動ブログ
・ニュースブログもお楽しみ下さい。



こっから facebook